

モノづくり企業の競争力強化や安全性確保の観点から工場・事業所の作業環境改善がクローズアップされる中、昨夏の猛暑もあって防暑対策への関心が高まっている。ただ、京都議定書発効など環境配慮への機運も強まっており、企業にとって省エネへの取り組み強化は経営の大きな課題。そこで求められるのが環境にやさしい防暑装置。鎌倉製作所（東京都港区北青山2の7の11、堀江威史社長、03-3403-4311）は水の気化放熱の原理を使つた「クールルーフファン（CRF）」を開発、優れた防暑効果と省エネなど環境性能の両立を武器に普及に全力をあげている。

グローバル競争が厳しさを増す中、モノづくり企業が生き残るには高付加価値化や高度な品質管理、納期短縮など競争力を強化し続けなければならぬ。それには、生産現場の従業員が快適に働ける環境整備が必要との認識が広まってきた。一昨年以来多発した事故の教訓からも、安全確保の一環として作業環境改善への意識が向上している。特に、昨夏のような猛暑では工場・事業所内は40度Cを超過するところも続出。厳しい作業環境が品質確保や納期管理などに及ぼす影響を懸念するには高付加価値化や高度な品質管理、納期短縮など競争力を強化し続けなければならぬ。それには、生産現場の従業員が快適に働ける環境整備が必要との認識が広まってきた。一昨年以来多発した事故の教訓からも、安全確保の一環として作業環境改善への意識が向上している。

環境は世界的な問題であり、わが国企業も空調装置の導入などでエネルギー消費を増やすだけで対応すればよいという時代ではなく

職場環境を大幅改善

の二酸化炭素（CO₂）排出量を90年比6%削減するーと

増して省エネへの努力が求められることになりそうだ。

同じレベルにし、2010年

第二種では勧告がなされる。

京都議定書発効を受けて、

その目標達成のために、企業には従来にも

はこれまで

はファンモーターの定格出力

が1・5キロワット、循環ポンプが

30・2キロワットになる。消費電力

はファンモーターの定格出力